

## 研修報告書 No.6

所 属： 県外研修医

研修先： 土佐市立土佐市民病院

2019年5月7日から5月31日の期間、土佐市民病院で地域医療研修をさせていただきましたのでご報告します。

まず、土佐市とは人口2.7万人の都市で、高知市中心部からは車で30分程度の距離にあり、山側では果樹栽培、海側では漁業と一次産業が盛んな町です。ご多分にもれず高齢化の進んでいる町ではありますが、先に述べたとおり働かれています方が多く、元気で活気のある方が多いという印象の場所でした。

土佐市民病院では、午前は外来診察を主にさせていただき、午後は検査の見学、超音波検査、内視鏡検査のレクチャーやハンズオンをさせていただきました。また、市内にある開業医の先生の病院にもお邪魔させていただく機会もあり、外来やリハビリテーション、訪問診察を見学させていただきました。回復期や慢性期、終末ケアの現場は、大学病院や急性期病院では触れる機会がなく、非常に貴重な経験を得ることができました。

地域医療研修では、医療資源や医療機関までの距離が都市部と比較して圧倒的に隔絶されているものだと思っていましたが、実際に身を置いてみてわかったことは、人も資源も非常に”available”であるということでした。かつてはアクセスの悪かった場所も国道や高速が整備され、物理的な距離は解消されつつあり、高知市内から通勤されている先生方も多く、設備の面でも不自由することなく診療を行うことができました。しかしその一方で、緊急手術や緊急カテーテル治療を行える体制の病院は土佐市内にはなく、高知市内に集中していることから、むしろその偏在化が顕著になっている面が際立って感じられました。急性期は高知市内へ搬送するほうが、多少の時間的なロスが生じるものの人的資源や医療資源の観点からは最適な医療が受けられるとのお話もうかがい、合点がいく部分もありました。

しかしながら、これらは我々医療を提供する側の都合であり、患者さんにとっては町にある大きな病院を頼りにきているわけですから、このような事情は関係ありません。また、先に述べたある種の階層的な医療及び分業体制は、さらなる医療の偏在化を招きかねなく、これらは今後の地域医療の役割という点において解決されなければならない喫緊の課題と思います。

地域医療という言葉でいう事は簡単ですが、一概に地域と言えどへき地と呼ばれる場所から土佐市のような場所までその振れ幅はとても大きく、実際に1か月身を置いてみなければわからないことばかりで、非常に有意義な研修を行えました。

あれこれ述べましたが、この研修で得た最大のものは、高知県の食べ物のおいしさに自然

の圧倒的なまでの美しさ、そしてなんと言っても高知家という家族のような温かさです。これだけでも、高知県で研修を行うことができ良かったと心から思います。

最後になりましたが、関わってくださりました土佐市民病院の先生方、スタッフの皆様、そして開業医の先生方に深く感謝を申し上げます。